

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、多くのオレンジ協力員*の活動が自粛に追い込まれました。各地で可能な活動を模索するなかで、オレンジ協力員等の地域住民と地域包括支援センターが連携して地域を見守るパトロール活動「オレンジパトウォーク」をこれまでの3地域（平成29年度から明第2西地域包括、平成30年度から五香松飛台地域包括、令和元年度から小金地域包括が開始）から市内全15地域に拡大し実施しました。

*オレンジ協力員とは、認知症サポーター養成講座を受講した方で、認知症の人と家族を支援するために専門職と連携して実践的な支援活動を行うボランティアです。

地域包括支援センター	活動内容・効果
明1	稔台地区を中心に計5回実施。延べ35名が参加した。「明第1お役だちマップ」と「オレンジパトウォークの案内」「地域包括のパンフレット」を配布を行った。参加者からは「パトウォークをしながら運動ができた」「楽しかった」「他の方と交流ができた」などの良い反応が得られ、お役だちマップを受け取った住民からも、相談窓口や地域資源についての問い合わせが入るようになった。
明2西	平成29年7月より、オレンジ協力員の積極的な声掛けの実践・高齢者の見守り・児童の見守り・各戸の見守りを目的に毎週金曜日の15時から16時にパトロールしており、17町会のうち1回あたり2町会を分担しながら実施している。認知症の方も一緒に歩いてチラシ配布を行い、認知症やオレンジ協力員、センター主催イベント等を周知している。
明2東	週1回パトウォークを実施し、チラシ配布や声掛けを行っている。パトウォーク開始にあたり、活動を周知するために、チラシを作成し、パトウォークの際に全戸配布した。チラシを見てボランティアに興味を持った方がオレンジ協力員として活動を開始するなど、参加者が増えている。



明第1地域包括 パトウォークの様子



小金地域包括パトウォーク（個別訪問）の様子

オレンジパトウォーク 15地区に拡大②

地域包括支援センター	活動内容・効果
本庁	毎月パトウォークを行い、チラシ配布や大規模マンションへの訪問を行っている。コロナ禍で地域の高齢者の把握が難しくなっていたが、パトウォークを通じて、オレンジ協力員だけでなく、民生委員や町会とも情報の共有が行うことができた。オレンジ協力員や地域包括が地域住民一人一人に声をかけ、活動周知を行ったことで、協力員の存在や包括窓口の確実な周知につながっている。
矢切	矢切地区、柿ノ木地区でそれぞれ月2回ずつコースを変えながら実施している。当初は協力員のみで人数も少なかったが、小学校、町会、民生委員にもお声かけし、誘い合ったださり、人数も次第に増え「新しい地域住民の輪」が広がっている。高齢者や小学生に会うと声をかけ、参加者が教えてくださる高齢者世帯のポストにオリジナルの包括のチラシを配布しており、地域でのパトウォークの意義や包括の窓口、役割の周知につながっている。
東部	毎月河原塚南山南地区と河原塚南山北地区でパトウォークを行っており、チラシ配布や個別訪問、下校時の児童の見守りなど幅広く活動を行っている。パトウォークが地域でも知られるようになり、参加者も増加していった。健康のためのウォーキングとして軽度認知症の方も参加することができ、社会参加につながった。
常盤平	月1回、オレンジ協力員や認知症の方、その方のご家族にもご参加いただき、常盤平地区内でパトウォークを実施。活動を行いながら、パトウォークの案内を掲載したメッセージカード、オレンジ協力員が作成した折り紙と一緒に悪質商法や熱中症に関するチラシ等をポスティングしている。参加している方からも「自分の認知症予防になる」という声が上がっておりオレンジ協力員の活動のモチベーション維持にも繋がっている。
常盤平団地	オレンジパトウォークを月1回程度実施し、地域の見守り活動に加え見守りが必要な認知症高齢者宅に個別訪問し専門職と情報共有している。面談や訪問に拒否感が強かった方もパトウォークを通じて関係性を築くことができ生活状況の把握ができるようになった。
五香松飛台	平成30年からパトウォークを開始し、令和2年度は見守りパトウォークを30回延べ125名の協力者（町会長・民生委員・高齢者支援連絡会・オレンジ協力員・皆護ネットワーク・地域住民）と実施した。市外の柏南部地域包括から見守りパトウォークを実施したいという問い合わせがあり、柏南部の地域包括ケア推進会議において当地区での運用方法を紹介した。

オレンジパトウォーク 15地区に拡大③

地域包括支援センター	活動内容
六実六高台	コロナ禍でのオレンジ協力員の活動として、オレンジパトウォークを行った。それぞれの体力にあわせて多彩なコースを歩いている。パトウォーク中は包括のパンフレットを近隣へポスティングしており、包括の周知につながっている。
小金	オレンジ協力員のみで行うオレンジパトウォーク（月3回）と地域包括とオレンジ協力員で行うオレンジ協力隊パトウォーク（月1回：個別訪問含む）を実施。オレンジパトウォークは、周知活動をメインとし、駅前の人通りの多いエリアで、オレンジ協力員による手作りのタスキを付けて、活動の周知を行った。オレンジ協力隊パトウォークは、個別訪問の希望を地域包括が事前に確認し、オレンジ協力員は事前に手紙を準備するなど接触の時間短縮を行う工夫をし、高齢者宅への訪問を行った。
小金原	月2回、小金原地区内10コースを順次パトロールしており、チラシ配布や個別訪問を実施している。パトウォークに参加した住民から「地域包括支援センターだけで地域を支えることは難しいだろう、自分たちも出来ることをしていくので、一緒に取り組もう」という声もあがり、支援が広がっていることを感じている。
新松戸	月1回、新松戸地区を3つのエリアに分けて、15：00～1時間程度、それぞれのエリアをオレンジ協力員の方とパトロールをしている。毎回10人～15人のオレンジ協力員の方々に参加いただき、オレンジパトウォーク、認知症、各種イベント等についてのチラシの配布や声掛けを行っている。同時間帯に歩いている人が少ないエリアもある為、活動する時間帯を変えていく事も課題としてあがっている。
馬橋西	月1回パトロールしており、パトウォーク参加を促すチラシを配布している。チラシを通じて興味を持ってくれた市民、これまでに認知症サポーター養成講座を受講していたがオレンジ協力員には登録していなかった方などにオレンジ協力員に登録して頂く事が出来た。オレンジ協力員を養成するために7月より毎月認知症サポーター養成講座を実施した。オレンジパトウォークが児童にも認知されてきて挨拶をされたりするようになっている。
馬橋	月2回、中和倉地区と八ヶ崎地区をパトロールして、チラシのポスティング・声掛け・見守り活動を行っている。認知症の方もパトウォークに誘い、パトウォーク当日はオレンジ協力員が自宅に電話をして迎えに行く等の工夫をし安全に参加できている。